



2011 ~ 2012 年度
R I テーマ

Reach Within to Embrace Humanity
ここの中を見つめよう 博愛を広げるために
国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー (国籍・インド)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



理事	亀井 孝	理事	近藤 賢司	役員	会長
〃	高宮 勝美	〃	平野 英壽	〃	亀井 孝
〃	森 宗明	〃	津末美代子	副会長	高宮 勝美
〃	村津 忠久			幹事会計	森園 伸也

例会日 火曜日 12 時 30 分
ところ ホテルニューソルタ ^{〒874-0931} 別府市北浜1-14-15
事務所 TEL (0977) 22-1100 FAX 21-1019
別府市西野口町 1 番 1 号 青山通りビル 3F
〒 874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>
E-mail:info@beppu4rc.jp

VOL. 24-35
2012年3月27日

第 1089 回 例 会

会報委員長 大島由美子

◆点 鐘 12:30

◆体 操 自律神経強化体操

◆R S 四つのテスト

◆唱 歌 さくら

◆B. G. M 「ダーク・ダックスの世界」より
荒城の月
叱られて
からたちの花 他

◆ビジター 上野 雄二 (別府 R C)

◆出席報告 出席委員長 衛藤 秀子

本日出席	会員総数	24名
出席者		16名
事前マイクアップ		2名
の理事会承認		1名
出席免除		0名
欠席数		5名
出席率		66.67 %
前々回の訂正	出席率	78.26 %
事後マイクアップ		2名
理事会承認		1名
出席免除		1名
修正出席率		86.96 %
連続回		
通算回	743回	100 %

・マイクアップ

事前 森 (もみじ谷)、
岐部 (4 R C 親睦ゴルフ)
事後 平野(英)、岐部 (RI 会長代理歓迎晚餐会)
欠席 津末、堀、平野(英)、河村、中尾
理事会承認 桧田

会長の時間

会長 亀井 孝

本日は23周年記念例会です。記念例会卓話を溝部 C M にお願いしました。よろしくお願いします。本クラブは1989年2月28日に市内3クラブの二階建てクラブとして発足、R I 承認が同年4月17日となっています。尚スポンサークラブは別府 R C です。

チャーターメンバー (創立会員) は21名、そのうち在籍会員は5名です。

現在までの23年間で会長に就任されたのは、鳴海淳郎会員 3回、村津忠久会員 1回、溝部仁会員 3回、桜田健治会員 1回、河村貴雄会員 1回となっています。その次にロータリー歴の

古い人は平野英壽会員 H.1.9.19入会、後藤隆会員 H.2.5.22の入会となっています。

別府中央ロータリークラブこれまでの主要事業 (主要実績)

1. 「鶴見岳一気登山」下山用道標の整備
2. 養護施設「栄光園」児童に対する愛のワク



チン攝取

3. 将来の美しい町・別府を夢見る「もみじ谷植樹」
4. 青少年に友愛の楽しみを育むインタークトクラブの結成
5. 少年少女のための小冊子「油屋熊八物語」発行
6. 一般向けのわかりやすいロータリー解説書「ロータリー物語」の発行
7. 一般向けのかわりやすいロータリー解説書「ロータリー物語」を改訂
8. 非営利活動法人別府もみじ谷トラスト機構設立
9. 別府もみじ谷記念植樹
10. 少年少女のための油屋熊八物語の再発行と配布（2000部）

幹事報告

幹事 森園 伸也

一識字率向上月間一

1. 本日の卓話

「アラブの春の真相を探る」溝部 仁会員

2. 『ロータリー適用相場変更』のお知らせ

4月1日より、全ての振込みに対する適用相場（ロータリーレート）が下記の通り変更となりましたのでお知らせ致します。

1ドル 82円 (現行78円)

3. 例会場名称変更のお知らせ

大分臨海R C・大分城西R Cの例会場の名称が、4月1日より下記の通り変更になります。
(旧) 大分全日空ホテルオアシスタワー



(新) 大分オアシスタワーホテル

4. 3月17日（土）13:00～翌18日（日）11:30にわたり、別府大学大分キャンパスに於いて「2012-2013年度R I 第2720地区会長エレクト研修セミナー（P E T S）が開催され、高宮勝美次年度会長が出席されました。

5. 3月25日（日）8:30～別府もみじ谷に於いて「もみじ谷植樹作業」が行われ、下記の方々

が参加されました。お疲れ様でした。その他、陸上自衛隊曹友会より荷宮会長以下40名、計46名での奉仕作業でした。

参加者：亀井 孝、村津忠久、森 宗明、鳴海淳郎、佐々木久宜 各会員
平野工務店より寺西氏

6. 3月25日（日）9:30～湯布院カントリークラブに於いて4R C（杵築・日出・湯布院・別府中央）親睦ゴルフコンペが開催されました。

参加者：後藤 隆、平野教康、近藤賢司、岐部光男、森園伸也 各会員

7. 本日、例会終了後、第3回臨時理事・役員会を開催いたします。

8. 委員会報告

○ロータリー探究：
No.453「わがクラブの長期計画を考える」
鳴海淳郎R情報委員長より

○社会奉仕委員会報告

村津忠久社会奉仕委員長より

9. お祝い

配偶者誕生日 鳴海静子さん（3月30日）
※記念品をお渡し致します。

10. 例会変更のお知らせ

別府東R C 3月29日（木）の例会は定款第6条第1節（C）に基づき休会

別府R C 3月30日（金）の例会は定款第6条第1節（C）に基づき休会

大分南R C 3月30日（金）の例会は、送別例会の為、3月28日（水）18:30～レストラン札幌に日時・場所変更

大分臨海R C 4月2日（月）の例会は定款第6条第1節（C）に基づき休会

大分1985R C 4月2日（月）の例会は、創立28周年記念例会の為 同日19:00～にしおかに時間・場所変更

別府北R C 4月4日（水）の例会は、花見例会の為、同日18:00～すず鈴に時間・場所変更

中津中央R C 4月4日（水）の例会は、花見例会の為、同日18:00～Ken's Barに時間・場所変更



中津RC 4月4日（水）の例会は観桜例会の為 同日18:30～森の風に時間・場所変更

11. 次週例会の予定

「花見例会」於：春香苑 18:30～
※当日は18:00～「第10回定例理事・役員会」を開催致します。理事・役員の方はご出席をお願いいたします。

12. 本日の回覧

①杵築・中津中央RC 週報
②「花見例会」出・欠席（4月3日）
③「別府市近隣7RC合同親睦ゴルフ大会」出・欠席（4月8日）

13. 本日の配布

①週報 No.1088

スマイルボックス 副委員長 平野 教康

○梶原会員

みなさん、お久しう振りです。やっとAPUの方も落ち着き、やっと出席できるようになりました。

今回からまた出席できることにスマイル。

○後藤会員

23周年だそうです。いつまでもつかな？

○近藤会員

先日、4ロータリークラブのゴルフ大会が湯布院ゴルフクラブでありました。雪が舞い散る厳寒のコンペでしたが、湯布院会員の心の温かさが伝わる楽しい大会でした。

○溝部会員

大分の寒田にある社会福祉法人姫山会の保育園の卒園式があり、本来は終わって職員と昼食を摂るのですが、ロータリーに来ました。

○鳴海会員

当クラブの創立23周年にあたり、未来に向かって更なる発展を祈念致します。

先日のもみじ谷作業では、森さんに大変お世話になりました。

また、先にも述べましたように、親、子、孫3代にわたって現役で医療に従事していますが、このたび更に次に孫が医師国家試験に合格、

有能な救急医を目指して沖縄県立中部病院に勤務することになりました。嬉しい限りです。

以上を感謝し、よろこんでスマイル致します。

○村津会員

来月7日の「一気登山25周年記念の集い」の講師として予定されていた田部井淳子さんが急病の為、地元のコピーライター吉田寛氏に代わって頂きました。

一昨日の「もみじ谷奉仕」。詳細は先程の委員会報告の通りです。御参加の皆様に感謝してスマイル。

○平野(教)会員

25日のロータリーコンペ、近藤さん、後藤さん、森園さん、岐部さん、お疲れ様でした。特に後藤さん、すごかったです。スマイル。

ロータリーソング委員会報告

村津 忠久

新入会員皆様にはロータリーソングのテープをお配りしておりましたが、CDの方がよいとの御要望で作りました。

御希望の新入会員の方に無料で配布します。

社会委員会報告

村津 忠久

雨の為1週間延期された「春のもみじ谷植樹」は25日日曜日に実行されました。

参加者は亀井会長、鳴海、森、佐々木、村津、各会員と平野工務店社員の寺西氏、そして、陸上自衛隊別府駐屯地曹友会・荷宮会長以下40名の計46名でした。

今回、コーラスグループは、「組曲・鶴見火山」の合同練習と重なり、私以外は参加不可能でした。

作業開始式で、荷宮会長、亀井会長の御挨拶を頂いた後、作業現場に向かいましたが、この頃気温4℃、猛烈な強風で寒い中での作業となりました。

しかし、晴天に恵まれ、当日予定の200本は無事植樹され、3月18日迄に植えられた300本と併せて、本年度の植樹本数は500本となりました。

こだわりの「08・09地区」の残存成育数は295本でした。



『アラブの春』の真相を探る

1 はじめに

昨年春から始まったアラブの春について、我々は、ただ単に、長期独裁政権を打倒する。その結局、アラブに民主主義が誕生する。という安易な理解と幻想が横溢し、その真相がまったくと言つていいほど、触れられていないので、その真相を探ってみたい。

2 長期独裁政権の打倒

昨年の春、エジプトで起こった革命は、瞬く間に、中近東各国に及び、アメリカやEU各国は、民主主義国家樹立のために空爆や軍事的援助を行い、ムバラク大統領は、追放され、カダフィ大佐は、殺されたのである。この時に、我々は、喝采し、陰ながら喜んだのではないかと推察する。

私は、最初から、この革命に疑念と疑問を感じていた。と言うのは、中近東の国々は、一民族国家ではなく、多くの部族が集まった国家であるからである。一つの例を出せば、誘拐された日本人や外国人の解放の時、大統領や首相に解放の労を懇願するのではなく、裏社会を通じて、部族長に解放のお願いをする場面が多々あったが、ご記憶であろうか。

ところで、中近東は、第二次世界大戦終了まで、みんなヨーロッパの植民地であった。そこで、中近東の国々の国民は、何故、永らく植民地になってきたのだろうか、と真剣に議論をしたのである。その結果、教育が遅れていたからだ。との結論を得たのである。

そこで、アラブ諸国は、幼稚園から大学までの教育制度に力を注いだのである。6歳から22歳、もしくは、24歳までの教育は、充実し、完璧といつても過言でない教育制度が確立できたのである。

しかし、よく考えてみると、人間の寿命が、24歳ではなく、残りの40年、50年を幸せに暮らすためには、産業を興す必要があったのである。中近東は、もともと乾燥地帯であるから、第一次産業の農業は、多くの人口を吸収する力はない。第二次産業は、いうまでもなく、石油産業であるが、人口比からみれば、ごくわずかな国民しか吸収されなかつたのである。そこで、多くの人口を吸収するためには、第三次産業しか、残されていなかつたのである。因に、メイド・イン・エジプト、メ

イド・イン・リビア等の製品を買ったことがあるだろうか。まず、皆無だと推察する。

従って、中近東の国々は、公務員・軍隊と警察官で、国家を運営してきたのである。『アラブの春』と称して、エジプトのムバラク大統領の長期独裁政権を倒す、という一点で、エジプト国民が立ち上がったのである。

このような歴史的経緯を踏まえ、女流作家の塩野七生氏は、次のような素晴らしい論文を寄稿している。『十字軍は、結局敗北に終わったが、それ以降は、勝ったにもかかわらずイスラム側は停滞し、敗れたキリスト教側のほうが繁栄の道をたどるのはなぜだろうか。

当時の中近東は、イスラム世界の中心で、生産品の品質は、ヨーロッパより優れていた。ゆえに問題は、優れた製品をその値段でも買える購買層が広い範囲で確立していたか否かである。それがイスラム世界では、広い範囲で確立しなかったのではないか、と。

一方、ヨーロッパでは、フィレンツェやヴェネツィアのように共和制の都市国家が抬頭していく。土地に経済基盤を持たない、自分自身の頭と手だけが頼りの人々が集まってできた国なので、生産する中流階級が主力を占め、それによって経済力も向上する。優れた工業製品でも優れた芸術品でも、こうした内需が保証されることで、より広い購買層の確立につながり、それが十字軍の終焉から百年も経ずして始まる、ルネサンス、つまり、ヨーロッパの時代につながっていったのである。

民主政体は、安定した中流階級のないところには確立しない、と言われる。ならば、圧制者の追放には成功しても、自らの意志で生産にはげむ健全な中産階級が確立していない社会に、民主的な政体は根づくことができるのか。イラクでもアフガニスタンでも成功しなかった。それが、エジプトとリビアやチュニジアだと成功できるのだろうか。私には、圧制者を追放した後のこれらの国が、それ以前の部族社会にもどってしまう気がしてならない。それとともに、部族社会こそがテロリズムの温床（アルカイダ）であったことも思い起こしながら。』と小論文を発表している。傍点部と（ ）内筆者追加。いかがであろうか。塩野七生氏の炯眼と洞察力に素直に首肯せざるを得ない。



3 長期独裁政権打倒後のエジプトなど

実際、昨年末にエジプトで選挙が行われたが、イスラム教を信奉し、強固に解釈する政党が、大挙当選した。こうなれば、女性は、差別され、教育を受けることさえ禁止される社会になることが推察される。アフガニスタンなどをみれば、容易に想像できよう。これを防ぐために、イスラム国家であることを強く標榜することなく、部族対立を強権で引っ張ってきたムバラク大統領の手腕をもう一度、評価しなければならないと思念する。事実、イスラム教国家でありながら、イスラエルとの窓口が開かれていたことを思い出してほしい。リビアのカダフィー大佐もムバラク大統領と同様に、部族間の対立を力で、治めてきたのである。今リビアは、部族間の対立で、治安は悪化、毎日のように死者が出る惨状である、と報道されている。特に、石油が出る地域の部族が、独立を目論んでいる。との報道もある。

アラブの春に共通するのは、将来の国家像を描かないままにただ単純に長期政権を倒す、という一点に絞られてきたために、発現しているのである。また、『コーラン』にも『勤勉に働く』という教えがないために、第二次産業が勃興せず、多くの国民を吸収できないために、ギリシャ同様に、止むを得ず、第三次産業の公務員・警察と軍隊で、吸収してきたのである。さらに、エジプトの宗教は、と、問われたら何と答えるであろうか。恐らく「イスラム教」と答えると思うが、人口の25%を占めるキリスト教信者、具体的には、コプト派（注1）のキリスト教徒もいる。現在、イスラム教信者とコプト派のキリスト教徒が血で血を洗う抗争が起きていることを知っているだろうか。我が国の国民のほとんどは、知らないと推察する。このような点からみれば、ムバラク大統領の時の方が、よほど安定していると感じないだろうか。まさに、塩野七生氏が指摘し、危惧したとおりの推移を辿っていることに驚嘆せざるを得ない。

『アラブの春』から我々が示唆を受ける事柄はないか、よく考えてみると、次の三点に収斂されると思念する。

一つが、テレビや新聞の報道を信じて、疑わぬ。という安易な心構えでは、眞実は見えてこないことを是非理解し、認知してほしいと思う。二つ目が第二次産業が勃興しなかったために国民の多くを吸収する社会構造が構築できなかった。その根拠というか、その基層にはアラブ人が『勤勉』

さという価値観がないために第二次産業が勃興しなかったのである。三つ目に結果として、民主主義は、成立せず、長期独裁政権を許すこととなつたのである。以上の三点を学ばなければならないであろう。

（注1）西暦313年のコンスタンティヌス帝は、ローマにおいてキリスト教を国教と定めた。その過程で『神』・『キリスト』と『聖霊』を一つのものとして、信じるか、別々かの議論がなされていた。要するに、いろいろな説が唱えられ、混沌とした状態が続いていたのである。

それからまもなく、325年ニケア公会議が開かれ、800人ほどの教父が集まり、侃々諤々の議論の末、『神と神の子キリスト』が同じ本質を持つという見解に統一されたのである。すなわち、『三位一体説』は、退けられたのである。

こうした流れの中で、神的性質と人間的性質を完全に一つの本質として解釈する宗派が現れたのである。エジプト・エチオピア・シリアやアルメニアの一部のキリスト教徒をコプト派と呼んでいる。

4 むすび

以上考察してきたように、『アラブの春』と称し、いかにも独裁政権を倒した方が、民主主義国家になるというアメリカやヨーロッパの国々のような幻想を抱かないことである。要するに、中近東の国々は、部族社会が、基層にあり、これらを統一するには、強権を発動するしか、統一する方法がないことを知るべきである。今一つが、コーランに勤勉に働く。という教えがないために、民主政体を構築する中間層が、存在しないために、アメリカやヨーロッパ型の民主主義は、成立しないことを知ってほしい。



もみじ谷 植樹作業



会員コラム

プロジェクトチーム

昨年、関与先のA社長からコンサルティングの依頼を受けた。数あるコンサルティング会社の中から当社を選んで下さった理由は次のとおりだった。

「ある日、河村会計事務所の担当者と酒を酌み交わした時、その担当者のモチベーションが非常に高く、我が社には60名の社員がいるが果たして、そこまでの意識を持った社員がいるだろうか?」と思ったことがきっかけだったそうだ。私はさっそく、その担当者をプロジェクトのリーダーにし、6名のメンバーを選抜した。

いよいよプロジェクトが動き出した。事前の会議を何度も重ね、1年間のタイムスケジュールを作成、まず全社員を対象としたアンケート調査を行い、さらに60名全員と個々にプロジェクトのメンバーが面接を実施した。そこで得たデータを分析し、わかりやすくグラフやチャートを使いA社

河村 貴雄

長に会社の現状をありのままに報告した。

次にA社長の本音を忠実に繁栄した経営計画書(方針書)を作成して頂くことにした。A社長とプロジェクトのメンバーが合宿でもするかのごとくホテルに泊まり込み夜を徹して議論を深め、計画書を完成させた。さらにA社のマネジメント会議にプロジェクトのメンバーが毎回同席し、適時アドバイスを行ってゆく手法もとった。またA社の全員の考え方のベクトルを合わせる為の研修会も開催した。

数ヶ月後、A社長は「社員達の意識改革が徐々に進んできた。期待していたペースより早く結果があがりはじめた。それが計数情報(月次決算書)からもはっきり読みとれる」と語ってくれた。

この成功体験は我が社にとっても喜ばしいことであり、これらノウハウの蓄積がひいては関与先企業の発展へつながってゆくと信じて日々、歩を進めている。次回は、溝部仁会員です。